



めいじてんのう
明治天皇
(1852-1912)

義か理か 加茂と会津

名前 ()

Q しきしん 写真の9名の中には、加茂にきた人がいます。



かわい つくのすけ
河井 継之助
(1827-1868)



まつひら かたもり
松平 容保
(1836-1893)



とくがわ よしのぶ
徳川 慶喜
(1837-1913)



さいごう たかもり
西郷 隆盛
(1828-1877)



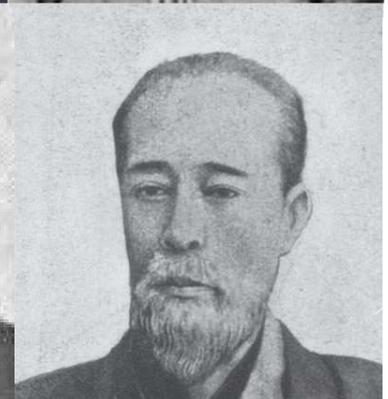
さかもと りょうま
坂本 龍馬
(1836-1867)



にいしま やえ
新島 八重
(1845-1932)



まつひら さだあき
松平 定敬
(1847-1908)



たかはし でいしゅん
高橋 泥舟
(1835-1903)

※ 「義」とは、正しい行いを守ること。「理」とは、筋道の通るように考えること。

加茂と会津

いっばるっは
1868年 「日本国」が生まれた年

遠い昔から「日本国」という言葉はありましたが、「国」を意識したのは、ごく一部の支配者だけでした。

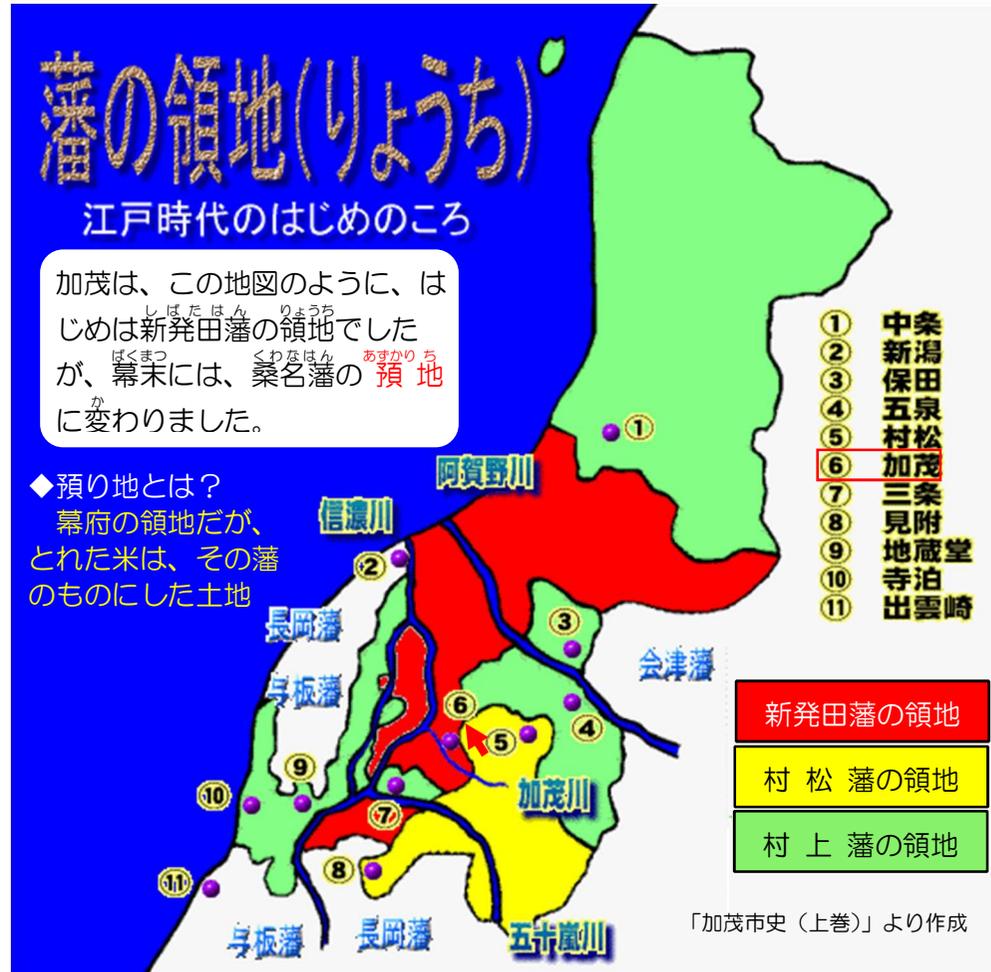
一般の人、例えば、皆さんのような子供も、「日本国」という、一つのまとまりを意識し始めたのが、この年でした。

この年に、日本で何が起きたのか？
 そして、加茂はどう関わっていたのか？
 さらに、これからの生活に生かせることは何か？
 — 自分で調べ、友だちや大人と対話をして、自分の考えをまとめましょう。

まず、1867年にタイムスリップ！

パズルのような国 「江戸時代」

当時、「日本国」は、武士中心の「藩」という、全部で300くらいの小さな国が、パズルのようにまとまってできていました。そして、その中心にいたのが、徳川家の将軍でした。上の地図を見てみましょう。加茂の周りの主なものだけをみても、北から、村上藩、新発田藩、会津藩、村松藩、長岡藩、与板藩とパズルのようになっています。小さな藩や、上越地方の藩もいれると、20くらい藩の領地がありました。幕末、加茂は、七谷が村松藩、須田は新発田藩、加茂・上条は桑名藩の預地でした。



歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す

1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還
 1867.12.9 王政復古
 1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
 1868.3月 江戸城明け渡し



1868.5.19 長岡城明け渡し
 1868.5.22 加茂軍議

1868.5.24 長岡城の戦い



城を取り戻す
 1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



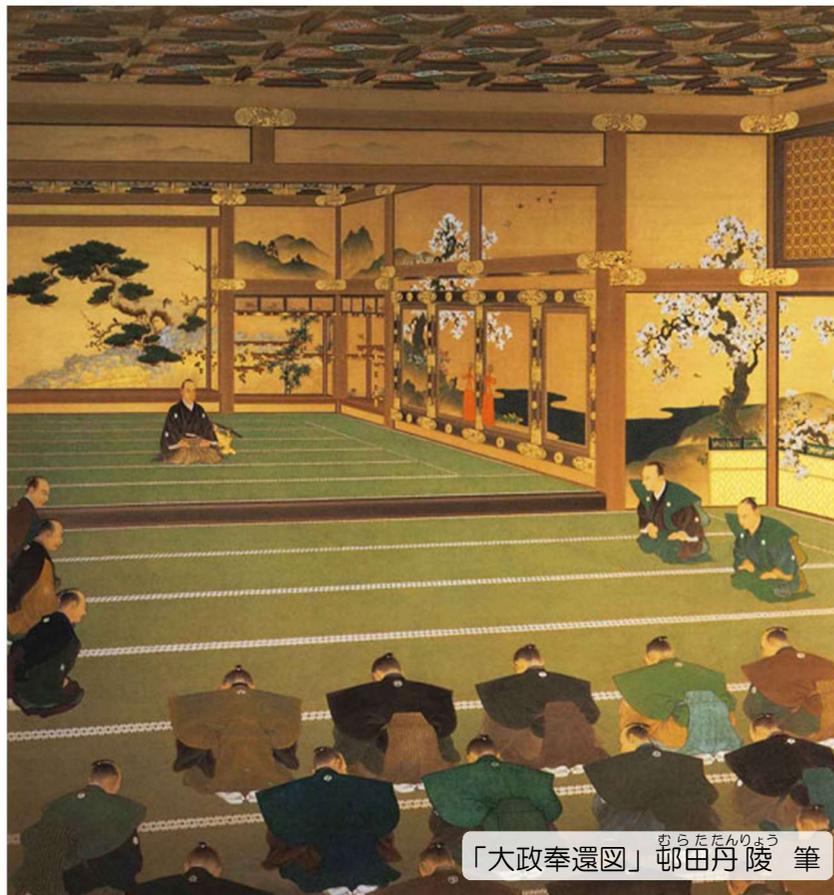
※「だれ」にとって都合がよいのか、教科書や資料集で調べましょう。

借りたものを返した？ 「大政奉還」

右の絵は、1867年10月、二条城（京都）で、江戸幕府の最後の将軍、徳川慶喜が「日本国」を治めることを、明治天皇に返す、と宣言した「大政奉還」です。さまざまな問題があるので、いったんお返したあと、天皇家と徳川家でいっしょになって、「もう一度やり直そう」と考えたのです。

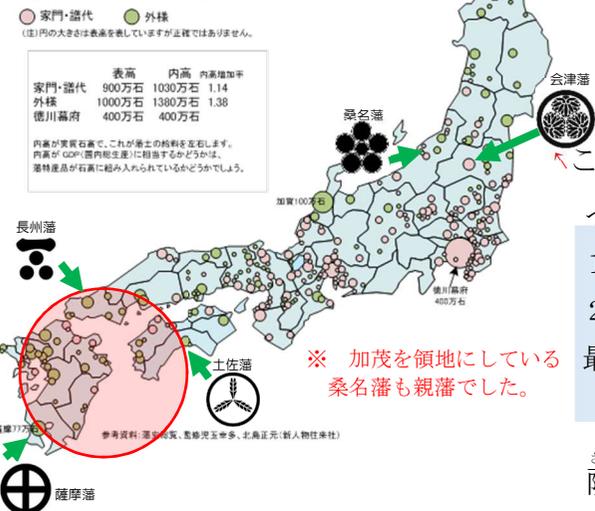
返したものを自分たちの手に！ 「王政復古」

しかし、1867年12月、薩摩藩、長州藩、土佐藩を中心に、江戸幕府を廃止して、天皇中心の国作りをすると、宣言をしました。これが「王政復古」です。



「大政奉還図」 邨田丹陵 筆

維新前頃の藩(家門・譜代、外様色別)分布



この3つの藩は、左の地図のように、西日本にある藩です。当時は、藩といっても、次のような3つのランクがありました。

- 1番が、親藩（徳川家の親戚）または、家門
- 2番が、譜代（徳川家をずっと支える家来）
- 最後が、外様（徳川家とは敵だったが、家来になった）

※藩は会社のようなもので、社長（殿様）が変わると、藩のランクも変わる場合があります。

村上藩は、外様から譜代、親藩、譜代と、猫の目のように変わりました。

薩摩藩、長州藩、土佐藩は、外様でした。

歴史年表

※当時の暦（旧暦）で示す
1600 江戸幕府始まる

- 1867.10.14 大政奉還
- 1867.12.9 王政復古
- 1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
- 1868.3月 江戸城明け渡し



- 1868.5.19 長岡城明け渡し
- 1868.5.22 加茂軍議

1868.5.24 長岡城の戦い



- 城を取り戻す
- 1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



義と理の戦い?

「戊辰戦争」

右の地図は、1868年1月から1869年5月までに起こった、主な戦いです。

赤色が新政府軍（薩摩・長州・土佐藩側）の、青色が幕府側の進路です。

大きな戦いが、6つありました。まとめて「戊辰戦争」と言います。

新潟県（当時は、越後）で起きた「長岡城の戦い」と、続いて起きた「会津の戦い」は、加茂と大きく関わっています。

- 鳥羽・伏見の戦い … 新政府軍 勝利
- 江戸城明け渡し … 新政府軍 勝利
- 上野戦争 … 新政府軍 勝利



新政府軍は、上のように3つの戦いに勝利し、続く長岡城の戦いにも勝利しました。こうした中、旧幕府軍で協力して、新政府軍を打ち破るための体制が作られました。それが、「奥羽越列藩同盟」です。奥州（青森、岩手、宮城、福島）・出羽（秋田、山形）・越後（新潟県）の藩が集まったものでした。しかし、1868年7月に、長岡城が新政府軍におちると、「同盟」の中でも、今後のことを考えて意見が激しく分かれました。

「恭順」か「抗戦」か？「加茂軍議」

長岡藩の武士は、ぞくぞくと加茂のまちに入ってきました。会津まで引くか、ここ加茂を本部にして反撃するか。5月22日から5月23日までの2日間の「奥羽越列藩同盟」の藩の軍事会議、つまり、「加茂軍議」が行われました。

恭順	抗戦
	会津藩（福島県）→
	桑名藩（三重県）→
	米沢藩（山形県）→
	長岡藩（長岡市）
	村上藩（村上市）→
	村松藩（五泉市）→
	上山藩（山形県）→
	会議の始まりは、ほとんどが様子見でした

歴史年表

※当時の暦（旧暦）で示す
1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還
1867.12.9 王政復古

1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
1868.3.11 江戸城明け渡し



1868.5.19 長岡城明け渡し
1868.5.22 加茂軍議

1868.5.24 長岡城の戦い



城を取り戻す
1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



きょうじゅん こうせん 恭順から抗戦へ 「軍議1日目」

右の図は、5月22日(今の暦で7月11日)の軍議に集まった藩を表したものです。当時は、家紋場所は、加茂町の大庄屋の屋敷(市川邸:今の第四銀行周辺)です。全体指揮をする藩は、奥羽越列藩同盟の越後のまとめ役をする米沢藩であるはずでした。しかし、だれがリーダーになるかで「会議」は最初からもめました。その様子を、実況放送風にみていきましょう。それぞれの藩の「知恵」が絡み合う姿をみていきましょう。



米沢藩: 全軍の指揮をするのだけは、ごかんべんください。

会津藩: あなたが、越後の藩を助けないというなら、あなたの藩のご先祖である上杉謙信さまは何といわれるでしょう？

長岡藩: わが長岡藩は7万石ほどの小さい藩ですが、義の心を忘れたことはありません。わが藩は開戦に踏み切ったのですが、村松藩の裏切りで、あえなく長岡城は落城しました。

村松藩: 河井継之助どの、裏切りなどではありません。ここにきているのが証拠です。

長岡藩: ここは団結して、長岡城を取り戻す作戦を考えてはどうでしょう。

米沢藩: 長岡藩の河井継之助どの、村松藩の気持ちもわかって、ここはいっしょに戦おうではないか。

桑名藩: わが桑名城も落城している。わたしたちも、自分の城を取り戻す決意です。ここは、長岡城を取り戻そうではないか。

会津藩: 今日の会議で、奥羽越列藩同盟の義の心を確かめることになった。そして、今日決まったことは、長岡城を取り戻すことだ。

河井継之助が言った「村松藩の裏切り」とは事実ではない。この発言で、軍議は長岡城を取り戻すという【抗戦】に変わる。

歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す
1600 江戸幕府始まる

- 1867.10.14 大政奉還
- 1867.12.9 王政復古
- 1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
- 1868.3.11 江戸城明け渡し



- 1868.5.19 長岡城明け渡し
- 1868.5.22 加茂軍議 一日目

1868.5.24 長岡城の戦い



- 城を取り戻す
- 1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



長岡城を取り戻せ 「軍議 2 日目」

右の図は、5月23日(今の暦で7月12日)の軍議に集まった藩です。1日より参加者は少なくなっています。前半は、だれが指揮をするのか、そして、村松藩への非難で、時間が流れていきます。

しかし、次第に長岡藩の河井継之助が会の流れを作っていきます。長岡城を取り戻すための具体的な作戦を示していきます。

ふたたび、藩の「知恵」が絡み合う姿をみていきましょう。



歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す
1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還
1867.12.9 王政復古
1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
1868.3.11 江戸城明け渡し

1868.5.19 長岡城明け渡し
1868.5.23 加茂軍議 二日目

1868.5.24 長岡城の戦い

城を取り戻す
1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い

1869.5月 五稜郭の戦い

会津藩：指揮は米沢藩にお願いしたい。
 米沢藩：まだ、藩の責任者が加茂に来ていません。それから相談をお願いしたい。
 長岡藩：昨日昨日もいったが、わが長岡城は、村松藩の裏切りによって落城したのです。村松藩は、このことをどう考える。
 村松藩：河井継之助どの、昨日もいったが、だんじて裏切りなどではありません。ここにきているのが証拠です。(長岡城を取り戻して、どれほどの利益があるのだろうか？ 疑問に感じ、黙っている人も多数いた。)
 長岡藩：敵(新政府軍)もまさか、われわれが加茂にまっぴらだと知らない。ここは、一気に長岡に攻め込んでどうか。
 会津藩：一日目の軍議で、河井継之助どのの会津藩への義を感じた。それにこたえるためにも、長岡城を取り戻すことに全力をつくそうではありませんか。
 桑名藩：加茂は桑名藩の預地です。ここを中心に、一気に攻撃をかけましょう。
 長岡藩：長岡城を失った今、加茂は越後の中心です。ここを足がかりに、知恵を使い敵が思いつかない作戦をすれば勝てる。
 米沢藩：わが藩は藩をあげて、長岡城を取り戻すことに協力します。

この後、長岡藩が、作戦内容と各藩の役割分担を決める。そして、次の日(5月24日)、軍は加茂をたち長岡に向かう。

5日間の長岡城 「長岡城の戦い」

同盟軍は7月24日、長岡城の北東にある湿地帯・八町沖から攻め込みます。

「八町沖」とは、付近の住民からも「魔物が住む」として恐れられていた場所でした。河井継之助は、この場所に目を付けます。

7月25日奪還した長岡城は、29日再び新政府軍に奪われます。わずか5日間でした。河井は逃げ落ちる際に受けた傷で、8月16日なくなりました。長岡の約85%が焼失。

その時、新発田藩は 同盟を離れる

一方の新政府軍は、2隻の軍艦と5隻の輸送艦が新潟港に上陸します。新発田城へと向かいます。

新発田藩は、新政府軍側に立っていましたが、周りの藩が幕府側で奥羽越列藩同盟に入らざるを得なかったのです。

そこで、新政府軍の上陸という状態になった以上、恭順（新政府軍に従う）の立場をとっていました。

一方、同盟軍は 加茂の戦い

8月4日、同盟軍は、新政府軍との戦いを加茂・下条の大原で行う。しかし、5日、負けが濃くなると、新政府軍の進軍を遅らせるため、同盟軍や会津藩の武士の中には、下条の中興野や加茂町に火を付けた者もいました。



歴史年表

※当時の暦（旧暦）で示す
1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還
1867.12.9 王政復古
1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
1868.3.11 江戸城明け渡し



1868.5.19 長岡城明け渡し
1868.5.23 加茂軍議
二日目

1868.7.24 長岡城の戦い



城を取り戻す
1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



そして会津へ「会津の戦い」

新政府軍の、会津、特に会津若松への戦いは、8月21日に始まりました。

会津藩は、奥羽越列藩同盟軍として、越後の地に多くの武士を送りました。会津若松城を守るべき武士の数が足りないこともあって、年の若い「白虎隊」の悲劇も起きました。

明暗 「戊辰戦争後の処分」

新政府軍の勝利に終わった戊辰戦争後、各藩の処分は、次のようになりました。

最後まで「抗戦」の会津藩や長岡藩、途中から「恭順」の桑名藩や村上藩、「恭順」の新発田藩で、「明暗」が(はっきり)分けられました。

【明】領地はほとんど変わらなかった

村上藩 村松藩 新発田藩

【暗】領地が減らされた

会津藩 23.0万石 → 3.0万石
 長岡藩 7.4万石 → 2.4万石
 米沢藩 18.0万石 → 14.0万石
 上山藩 3.0万石 → 2.7万石



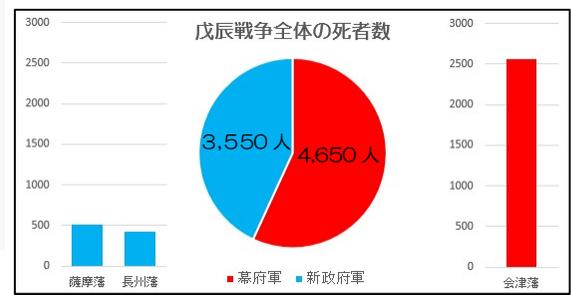
戦争後の「会津若松城の写真 壁の黒いあとは、新政府軍の砲撃で開いたもの

新政府軍

- 薩摩藩
- 長州藩
- 土佐藩
- 佐賀藩
- 大村藩
- 佐土原藩
- 人吉藩
- 中津藩
- 小倉藩
- 岩国藩
- 広島藩
- 岡山藩
- 鳥取藩
- 今治藩
- 紀州藩
- 彦根藩

会津軍

- 会津藩
- 棚倉藩
- 仙台藩
- 中村藩
- 福島藩
- 二本松藩
- 歩兵第7連隊
- 伝習隊
- 衝鋒隊
- 新撰組



歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す
 1600 江戸幕府始まる

- 1867.10.14 大政奉還
- 1867.12.9 王政復古
- 1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
- 1868.3.11 江戸城明け渡し



- 1868.5.19 長岡城明け渡し
- 1868.5.23 加茂軍議
二日目

1868.7.24 長岡城の戦い



城を取り戻す
 1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い





最後に、校長室にある、高橋泥舟の筆「須田校」について紹介します。高橋泥舟は、最後の将軍徳川慶喜が大坂から江戸に脱出する際に、自ら希望して慶喜を守った武士です。その後、新政府からの勧めにも興味を示さず、世の中の表舞台から姿を消しました。泥舟は、あの江戸城明け渡しに関わった勝海舟と山岡鉄舟とならぶ、「幕末の三舟」の一人です。

明治25年(1892)須田校(旧校舎)の校舎改築の際、泥舟が何かの際に越後に立ちより、「須田校」の三文字をしたため、寄贈したものが、現在も残っています。

当時の須田地区は、毎年のように大水等の災害に田畑が荒らされていました。その苦しい中にありながら、教育のために地域の人々は校舎改築に心を注ぎ、須田を美田と果樹畑に変えました。当時の須田の教育にかける熱い思いが三文字から伝わってきます。

徳川への「義」に生きた幕府側の奥羽越列藩同盟の藩、「理」を求めた新政府軍側。それぞれの立場になって考えれば、義も理もある戦い、それが戊辰戦争でした。戊辰戦争の結果を知っている私たちは、「こうすればよいのに！」と簡単に答えを出せません。

でも、まだ「未来」の結果を知らない当時の人たちは、必死に知恵を出し合い考えました。歴史の事実は変わりませんが、その意味は常に変わり続けます。戊辰戦争に負けた長岡藩は「米百俵」の精神で復興に取り組みました。会津戦争で負けた、白虎隊の悲劇を生んだ会津若松市には、連日見学者が来ています。幕府に「義」を通し「抗戦」することになった2日間の「加茂軍議」が、もし、「理」で物事を考え、新政府軍に「恭順」または「第三の道」をとっていたら、どんな「今」があったのでしょうか？

「○か×か(自分と同じ考えか違うか)」の単純な二者択一ではなく、おたがいが「納得する答え(納得解)」を創り上げていく力をつけてほしいです。